

日本共産党

尾村としなり

県民の命と安全を守るために 島根原発の安全対策を求めてがんばります

福島原発事故は人災！

崩れた原発の安全神話

原発問題を考える集い -講演交流-

5月22日(日) 午後 1時30分～4時30分

松江温泉「総合福祉センター」 資料代 300円



吉井英勝 衆院議員がお話します

「国会議員ではただ1人の原子力専門家」(「AERA」誌)
「5年前に原発震災を警告していた議員」(「サンデー毎日」)

いったい、福島原発の事故はこの先どうなるのか。なぜ、「人災」と言われるのか。何が問題なのか。収束はできるのか……。
原発問題の第一人者が明快に語ります。

福島原発の問題を質問する吉井英勝議員＝4月6日、衆院経済産業委員会

島根原発について尾村県議が報告します

主催 日本共産党島根県委員会 TEL24-2444

日本共産党県議団と力を合わせ頑張ります



松江市議会議員
かたよせ直行



松江市議会議員
飯塚 てい子

プルサーマルは中止して



尾村・萬代両県議が中電に申し入れ 危険なプルサーマルは撤回せよ

日本共産党島根県委員会は4月6日、中国電力に「原発の安全総点検・プルサーマル中止」を申し入れました。尾村としなり・萬代ひろみの両県議、松江・出雲の市議団、吉儀敬子・東出雲町議が参加しました。(写真は、中国電力島根支社での申し入れ)

尾村県議は、3月28日に中電の社長がプルサーマルを推進することを表明したことに対し、「とんでもない発言。経済産業省も地元合意が大前提としている。県は事前了解したが、福島事故で状況は変わっている。撤回すべきだ」と強く抗議しました。中電は経営層に伝えると答えました。



萬代県議は、島根原発から半径30km圏内の自治体との安全協定締結について「国の指示待ちではなく中電から率先して締結すべき」と要求しました。中電は「やぶさかではない」と答弁しました。また、「党議員の国会質問で、地震による引き波で、島根原発1、2号機を含む8割の原発が取水が困難になることを明らかにしている。中電は津波対策をとる」としているが、設計図や計画書を公表すべき」との指摘に対し、中電は「詳細な計画書を公表する」と約束しました。

中電への申し入れ事項

- ① 国際基準に合致し、今回の震災の教訓を踏まえた新しい安全基準に基づいた原発の総点検を実施し、安全対策に全力で取り組むこと。3号機は中止すること。
- ② 危険なプルサーマル計画は、直ちに撤回すること。
- ③ 中電が実施した活断層調査は不十分であり、専門家の意見を真摯に聞き、再調査を行うこと。
- ④ 出雲市など半径30km圏内に位置する自治体との安全協定締結に応じること。
- ⑤ 「安全神話」を一掃し、原子力の危険性を県民に正直に語り、情報公開を徹底し、説明責任を果たすこと。